



## ■安全管理講習会サポートいたします！

春を迎えるこの時期には、各事業者の皆様には毎年のように、会員様の移動や新規入会の方々が増える時期となります。

またコーチングスタッフも多くの新人が採用される時期です。お客様も指導者も初心者マークの時期、安全管理については慎重に丁寧に指導実践したいところです。

安全管理委員会では、日本テニス事業協会ホームページ上に安全管理ツールを掲載いたしております。また4月には安全管理セミナーを開催いたします。しかしながら、遠方で、忙しくてなかなか出席できない方も多数いらっしゃいます。

安全管理委員会ではそのような方々のために、地区協会で開催される講習にもサポートをしたいと考えております。

開催希望がございましたら、事務局までぜひお問い合わせ下さい。

## 気をつけましょう！この季節

### 寒い冬もようやく終わり、春のテニスシーズンに向かいます

新年度を迎えるにあたり、安全管理体制を再度見直してみましょう。

#### 1. 新規入会のお客様へのケアを

春は新規入会者が増える季節。クラブやスクールのシステム、そしてスポーツそのものに不慣れな方もいらっしゃいます。スクールでは、足元のボールのケアやドリルの動き方などに戸惑わないようじゅうぶんにフォローをしましょう。

また、クラブ会員様の場合、無理なペースでのプレーにならないよう試合をアレンジしてあげるのも良いでしょう。

#### 2. ジュニア会員へのケアを

新年度を区切りにテニスを始めるジュニアも多いと思います。新規入会のジュニア会員は、スクールに慣れている既存のジュニア会員と同じ動きは出来ません。大人は周囲をうかがいながら、動きやドリルのローテーションを合わせる事が出来ますが、子供には難しいものです。一時的にアシスタントコーチを増員するなどの工夫で、新規入会ジュニアが戸惑わず、レッスンに慣れるようケアをしてあげましょう。

#### 3. スタッフへの安全対策確認を

新入スタッフや異動で勤務地が変わったスタッフに対し、安全管理マニュアル、緊急時の対応を確認、研修しましょう。新人スタッフは当然ですが、異動で勤務地が変わればベテランスタッフであっても戸惑うことは少なくありません。新たな人員体制になる度に安全管理研修をしましょう。既存スタッフに対しても再喚起になります。

#### 4. 寒暖差に注意

昼夜、また日によって気温の変化が大きな季節です。冷暖房があるインドアでは温度の調節に気を使ったり、気温、湿度によって、運動負荷の調整やドリルの工夫をしましょう。またコートの結露などにも注意が必要です。

#### 5. 花粉症対策

くしゃみや涙目がプレーの妨げになる可能性もあります。コート付近にティッシュの設置をしてお客様がテニスをしやすい環境を作るのも必要です。

また、花粉症対策用スポーツグラスも販売されていますので、ご紹介するのも良いかもしれません。

## ■危険なドリル!!

レッスンの中での安全管理の注意点として、①準備体操・ストレッチ②受講者の体調③受講者の行動予測と配置の工夫など安全管理マニュアルとして紹介させて頂きました。

今回は、その中でもレッスンのドリルについて危険と思われる部分を紹介したいと思います。又、スクールによってはドリルのマニュアルの違いもありますので参考にならない点があるかもしれませんがご理解ください。

### ◆球出しの順番による危険なドリル

コーチは球出しのドリルを作成するときに生徒さんが最後にボールを打った後の移動の方向の説明や隣の列の方と衝突を避けるように注意をしてドリルを組むことが必要です。

特に2列で球出しをしているときの外側から内側に球出しを終えると打ち終わった生徒さん同士の衝突が予測されますので注意してください。

### ◆球出しのテンポによる危険なドリル

球出しのテンポを変えることにより生徒さんの動きのペースを変えることができます。上級者には動きを速くすることができ初級者にはゆっくりと動くようにリズムを調整できます。ただし注意してドリルを組まないと隣と衝突する危険性があります。

特に新しいドリルを開発したときは一度試して危険性がないように注意してください。

### ◆無理な詰込みのドリル

人数が多いとできるだけ短時間で多くのボールを打ってもらうために球出しでもラリーのローテーションでも練習箇所を増やしたりすることがあります。場所が増えることにより生徒さん同士の距離も狭くなるため危険も増します。十分注意してドリルを組んでください。

### ◆速いボールのドリル

チャンスボールやスマッシュなどの速いボールがテーマになっているときは十分注意をしてください。特にラリー時は隣の列に打ってしまうと重大な怪我につながります。狙うコースをしっかりと説明したり、強さを押さえてコースを狙ってもらうようにするなど工夫が必要です。場合によっては球出しのみでラリーでは行わない事も大事になります。

### ◆休憩場所の注意

球出し時やラリー時に休憩を作る場合は待機している場所をしっかりと説明しドリルを行ってください。ラリーしている後ろや横は危険が潜んでいますので、コートの外も検討し休憩してもらってください。

### ◆道具の置き方

カラーコーンやポジションマットなどレッスンする時には色々な道具があると思います。設置の仕方により生徒さんがぶつかったり、足を滑らせたり危険性があるので十分気をつけて設置することが重要です。

### ◆ボール拾い

ボールを拾うときはコーチの指示で拾うように説明することが必要になります。ボールがぶつかる事や、他の生徒さんの足元のボールをどかすつもりでボールを拾った瞬間に相手のラケットが当たることもありますので十分気をつけましょう。

以上にあたるような事を各スクールで確認し具体的なドリルの見直しをお勧めします。極基本的な事ですが初心に返り安全管理に取り組むことが重要です。是非参考にしてみてください。